

すくすく広場公開講演会・抄録

「農薬が子どもの脳を侵す」

~食卓から農薬を減らそう~

田坂 興亜 氏
現民間稲作研究所理事

令和4年 5月29日(日)
一般社団法人 すくすく広場
於:パストラルかぞ
記録 山口哲司

プロローグ 政府は、令和3年5月12日、「みどりの食料システム戦略」を策定し、令和4年7月1日、みどりの食料システム法が施行されます。これをめぐって色々な立場の人が提案をしています。いい部分を実施したいと、衆議院の農林水産委員会の質問に谷口委員さん有機農業学会会長が立ちました。「この戦略は工業型農業の問題を含むが、プラス面でも活用可能である。みどりの食糧戦略を使いたい」と。学校給食を有機にするということで、安全に食べていけるように、そういう社会を作っていこうと多くの市町村に働きかけていく取り組みで、少しずつ増えています。

文部科学省の報告により、特別支援学級に在籍する児童・生徒が増加傾向にある。発達障害支援の通級もこの十年増えている。子ども全体の数は減ってきている。しかしながら、特別な支援を必要とする子どもたちは増えている。支援学級も増えている中に通常による指導でも増加傾向にある。文部科学省は原因について触れていない。

2020年1月16日信濃毎日の記事 長野県池田町教育長の言葉「600人中配慮が必要な児童・生徒が150人 全体の1/4が該当する。」専門知識のある人材の投入について知事から提案があった。原因は大事な点であるが、政府には提言をしているグループ黒田順子さんの論文に(黒田・木村)自閉症や発達障害は、遺伝要因が強いと言われてきたが、現在では環境要因が大きいと分かってきている。全児童の6.5%文科省は2012年の調査で出しているわけです。

環境中の化学物質として、2000年頃から日本中で使いたしている、ネオニコチノイド。日本では許可されています。そこには、三つの問題があります。Ⅰ蜂の大量死 Ⅱ哺乳類の脳の発達を阻害 Ⅲ害虫が抵抗力をつけ大量発生している。Ⅱについては、ネオニコチノイド 構造式が苦手な人もいますが。左上にニコチン たばこの成分煙草の箱には「子どもは吸わない、妊娠中は吸わないでください」と書いてある。ニコチンが胎児に悪影響を与える。ネオニコチノイドはニコチンと類似した構造。ネオニコチノイドはいまだに使われている。構造は似ている。炭素に塩素がくっついたものは自然界にはない。そう簡単には切られない。DDTがよい例。最初は無害で、当時の写真に、食事を食べている子供たちに頭から蒔かれている。実は胎児に悪影響で使われなくなった。体の中に蓄積される。血液を分析するといまだに現れる。

ネオニコチノイドの出荷量 2000年から増えている。10倍以上に増えている。これらの農薬に問題があることに気付いたEU諸国は、三種類禁止、三種類はもともと禁止、一種類は残留基準を厳しくしている。それにより、全く使われていない。成分も検出されない。農業でネオニコチノイドは、稲、果物、野菜、玄米に使える。減農薬米 ネオニコチノイドを使っている可能性。浸透性農薬のため、洗っても落ちない。イチゴ、ブドウ、葉野菜に使われたら農薬ごと食べることになる。バナナの皮にもある。日本の基準は甘い。ちょっとでも使われていたらEUの基準には抵触する。日本は、緩和されている。EUの5~60倍の甘さ。厚労省に抗議しても変更はなかった。農薬会社に配慮しているのでしょうか。2015/5/19ほうれん草3PPMから40PPMに緩和した。国民の誰も知らない。

カンボジアでおしんという名前で、日本製ネオニコチノイドが売られています。「NHK おしん」がクメール語で放送された時代。農薬会社がネオニコチノイドを売るためにその名前で売る。(写真) 中国製のネオニコチノイドも「虫司令」として売られている。中国が輸出している。大量に使われている。カンボジアの国民は知らされていない。害があると言っても伝わるのには限界がある。

人の脳にも悪影響を与える。木村・黒田純子先生の論文に、ラットのニューロンにニコチンと同じ影響を与えるという内容が報告された。原論文を見るのは大変ですが、岩波の「化学」は図書館にありますから見たいのですが、自閉症や ADHD 増加の原因として環境化学物質、有機リン系、環境化学物質としてのネオニコチノイドを挙げています。

淡路島のニホンザル。1980年に野生の猿にえさを与えている。猿の間に先天異常が出ている。手足が無い。1970年代から生まれている。猿は人間と遺伝子が似ている。脳に影響を与える。四肢障害。厚労省は発表していない。餌を確認すると人が食べているものと同じ小麦があります。淡路島のエサの農薬分析の結果、マラチオンが小麦粉から0.06PPM、外側のふすまから0.13PPM 検出されました。この結果を電話で報告したところ、大阪大学に分析してもらったら同じ結果が出たそうです。

人が食べるパンにも使われている。アメリカからの輸入 高い濃度。小麦製品にも残留しています。学校給食 アメリカの有り余っている小麦を子どもに食べさせ続けた。ここにいらっしゃる皆さん。82歳よりちょっとでも下の皆さん。マラチオン フェニトロチオン が検出されています。更に1991年の残留農薬基準値 マラチオンでは、米に対しては0.1PPM 小麦 8.0PPM 基準が甘い。アメリカとの貿易摩擦を引き起こさないために、今でも続いている。

輸入小麦の汚染として、グリホサート ラウンドアップの主成分ですが、大豆や小麦を収穫前に枯らして処理してしまう。これが輸入小麦に残留してしまうことが分かった。長年散布してきた人が癌になり、カリフォルニアの裁判所で何億ドルの賠償金の支払い命令が出た。内分泌かく乱作用 木村・黒田純子先生が2019年「科学」11月号に掲載している。小麦粉大豆に微量入ったままになっている。グリホサートの構造が脳の中で悪さをする。左半分はグリシンというアミノ酸に似ている。十分脳の中に入りやすいが、証明されていない。

子どもたちの食べ物を守る 危険な農薬の使用禁止。政府が聞かない場合は言い続ける。諦めてはいけけない。EUではネオニコチノイドを使っていない。空中散布を止めさせる。有機無農薬の食品を推進する。学校給食の輸入小麦は有機米に変える。有機野菜、無農薬を推進する。減農薬ではだめ。パンを米に変えようは大きな掛け声になった。有機、無農薬で生産されたコメを、千葉県のみすみでは、市給食を無農薬米で賄うことに転換した。木更津も転換の試みが始まっている。ブータンに行ったら木更津市長が来ていた。有機食材を見に来ていた。世田谷も検討中。栃木県の小山市も、去年の12月、菜の花サミットで民間稲作研究所に有機給食の導入を依頼した。千葉県ののみすみ市、木更津市に続いてである。そういうところが増えていくと、技術が伝えられるところを探しています。今治、韓国でも動きがある。「土と健康」2021年9月号に掲載されています。

フィリピンのミンダナオ島で栽培されたバナナは、農薬の空中散布がなされている。日本の多くの輸入バナナです。ATJ(オルタトレード・ジャパン)と、ミンダナオ島を訪れた際に、無農薬栽培の周辺でドール、スミフルなどのバナナ農園が農薬の空中散布を行っていました。バナナに有機リン系の殺虫剤が散布されている。クロルピリフォスをアメリカが使用禁止したものが日本向け果物に使われている。

プランテーションを通学する子供たち。飛行機が頭の上で農薬を散布している。通学路の上で止めている?とは言っているが。急性毒性は低いものの、長期的な人体影響の心配はあります。ミンダナオ島では、先天的に、目が見えず脳に水が溜まっているピーター君が生まれたが、どの農薬が原因か、証明はできな

い。インド南部ケララ州でも生まれている。 エンドスルファンはアメリカで禁止。輸出はそのまま継続しています。

炭素と塩素の結合が全部で六カ所 危険な農薬の一つ エンドスルファンの構造について。「東京都健康安全研究センター」毎日食べているバナナからも有機リン酸系殺虫剤が検出されていることが所報で2013,2014年に報告されている。さらに、ネオニコチノイド系がバナナの皮から果肉まで検出された。2016年。バナナの有機無農薬栽培 サンフランシスコの農民が農地改革で共同体になり、有機無農薬で「キャベンディッシュ」というバナナを栽培している。408 バナナ園に袋が無い。ミンダナオ島のサンフランシスコ。水洗いで乾かして売っている。

有機農業の推進 「有機農業推進法」議員立法 共同提案 2006年 成立 私たちは活用しなければならない。国際的にはブータン 100%有機農業。DDT 回収してスイスに送って処分している。インドのシッキムも農業を有機農業にすると宣言。 アジア学院は宗教を超えて農村指導者の養成 ぜひコロナが収まったら見学に来てほしい。有機農業による飢えの解決を。

過去二年間 コロナで留学生をシャットアウト 寂しい状態。研修生の基準を大幅に緩めた。すでにアジア学院に 30 名近い留学生が来ている。マレーシアで若い人が草取りをしていた。田んぼの中で、除草剤を使わず草取りをしない方法の研修を申し込んだ。コロナで二年間研修生を受け入れることができなかった。

ブータンの話 国際会議 2014年 まだ大量の除草剤が使われていた。稲葉さんが簡単な方法で水田の雑草のコントロール法を確立している。ブータンの農業大臣が文章で資料を欲しいと。日本から稲葉さんを連れてきてほしいと要請があった。2015年ブータン訪問が実現した。JAICA が3年で1000万出すことで「除草剤を一切使わない水田の雑草コントロール」プロジェクトが始まる。

ブータン農業省の人との調印式を実施しました。筑波のジャイカホームページにブータンでの草の根プロジェクトが掲載されました。圃場の、ため池と田植えの紹介。協力者とともに撮った写真です。PARO 昔50年前日本人から無農薬農法を学んだと言っていました。TIMPUH 王宮があるところ 高いところに池を掘って実践。田んぼの整備についての紹介。日本からの協力者もボランティアで多く参加しています。アジア学院 2016年研修生2人の若手職員を招きました。アジア学院の卒業式を紹介しました。

Cama Chuki さんインド国境で農民の奥さんたちを指導して、有機稲作の実践が成功している。ブータン訪問時に元農林大臣 山田正彦氏も一緒に農作業に参加しました。ロイヤルプロジェクトファームで山田元農林大臣と共同で日本とブータン的大豆を植えた。今その大豆が実って農薬合成肥料を使わず、絞ったカスで肥料にした。大豆を絞る機械をインドから輸入して大量の大豆かすを有機肥料として活用しています。

ブータンでの有機稲作が始まっている。ブータンの有機農業を担っていく。ブータン王立大学に有機農業学科設立 2019年7月に 有機農業推進の若手 国内に広めていた。宗教人種の違いを超えて共に生きる。飢えの無い世界を回復するために国際協力の輪を広げよう。兵役を拒否する口実としてドイツ人もアジア学院に来ている。特技を生かして、コンピュータを直して活用している。ドイツ政府も認めている。